

「ベトナム『文化交流プログラム』レポート」



Hondaのベトナム現地法人であるホンダベトナムカンパニー・リミテッドが主催する「Honda エコ マイレッジ チャレンジ ベトナム大会」は今年で開催8回目を迎えました。例年多くのエントリーが参加し、現地メディアでも大きく取り上げられているベトナム大会。今回、ベトナム大会の継続的なレベル向上と現地参加者との交流を目的として、日本のトップチームを現地へ招待する「Honda エコ マイレッジ チャレンジ 文化交流プログラム」を、去る2017年4月13日(木)～19日(水)に実施。現地での体験をレポートしました。

文化交流プログラム参加チーム

2016年よりスタートした、グループII優勝チームが招待される本プログラム。今年は2016年優勝チームである「千葉県立下総高等学校自動車部」にご参加いただきました。また、こちらのチームは、2017年度もグループIIで優勝されたため、来年も本プログラムへの参加が決定しています。

1日目 4月13日(木)

空港に到着してすぐにホンダベトナムの工場に見学へ。工場全体では年間二輪車250万台、四輪車1万台を生産しているそうです。



ここでだけ手に入れた二輪・四輪車が両方入っている帽子を記念にプレゼント!

2日目 4月14日(金)

大会会場に移動し、車両の準備を行ないました。ベトナム大会の特設コースは1周約1200m、コース幅7m。参加181チームがエントリーしました。日本の大会と違うところは、学生クラスのエンジン規格が日本では50cc未満なのに対して、ベトナム大会では150cc以下としているところ。今回は日本の高校生チーム代表として参加しました。



夜はホンダベトナムのみなまん懇親会!

4日目 4月16日(日)

大会2日目、本走行。多くの現地メディアも注目するなか、スタートフラッグが振られました。ところがエンジンがかからない事態に。原因はバッテリーのトラブル。すぐに別のバッテリーを用意してもらって再スタートを切り、無事に完走を果たしました。



大会終了後には大会総合優勝チームと学生を交えてホンダベトナムの社長や大会運営役員の方々と懇親

3日目 4月15日(土)

大会1日目、練習走行。日本から運んで来たマシンはベトナムの湿度などの影響からメンテナンスが必要となり、その対応に追われました。整備中も現地参加者からの注目度は高く、車両の周りには常に大勢の人たちが集まり、色々な質問を受けました。



敬ホー・チミン氏が使用していた車の展示に興味深々!

翌日からは、ハノイ市内や各所旧跡、景勝地などを視察。ベトナムの歴史や文化にふれる機会を得ました。

▶名称
Honda エコ マイレッジ チャレンジ 2017 第8回 ベトナム大会
▶開催日
2017年4月15日(土)練習走行
16日(日)本走行
▶主催
ホンダベトナムカンパニー・リミテッド
▶開催地
ハノイ国際コンベンションセンター
(Hanoi National Convention Center)

参加者voice

ドライバー 石塚くん

コース幅は広く見ても走りやすそうでしたが、実際に走ってみるとポコポコしてマシンが跳ねるので体が痛かったです。大会に出場しているベトナムのマシンにはホンが付いていないんです。ぶつかるようなことはありませんでしたが、積極的にホンを使って利便性を伝えてきたつもりです。

メカニック&ヘルパー 厚海くん

初めて走るコースだったので、データがないことが不安でした。日本の大会は長年先輩方が積み重ねてきてくださったデータがあるので、改めて研究を積み重ねることの大きさを感しました。ベトナムでは、競技以外でも作業している様子を見たり人が集まってきて観察していました。ものを学んで自分のものにするためには、それほど真摯にやらなければならないんだと、見習いたいと感じました。

メカニック&ヘルパー 伊藤くん

スタート時にエンジンがかからないアクシデントに陥りました。原因はバッテリーでした。日本ではバッテリーの管理も行き届いていて、そんなことはほっぽりに等しいのに、海外に行くと洗剤を受けた気分です。同時に、品質の良い日本の環境が当たり前になってしまっ、嫌いな感じがして、それを反省していました。

メカニック&ヘルパー 宮崎くん

競技の場でも意見交換会でも、ベトナムの参加者の皆さんから色々な質問を受けました。自分たちの話を熱心に聞いてくれたことが嬉しい反面、もし自分たちが間違っていたことを言ってしまうと、それが現地に浸透してしまうという怖さもあり、日本代表チームに課せられた責任の重みを感じました。

メカニック&ヘルパー 三浦くん

ホンダベトナムの生産工場では、ものづくりの基本を教えるでもらっているような気がしました。四輪の生産ラインに、あえて手作業を取り入れることで、社員に自動車の生産方法を学んでもらおうという狙いがあるそうです。どの生産工程も開通で見ることができたし、うらやましいと思いました。人間的に成長してもらいたいという思いで社員を育てているのだということが強く伝わってきました。

Ene-1GP デモンストレーション走行 レポート



充電式単三電池40本を動力源とした、まったく新しいエネルギー管理競技「Ene-1 GP」。競技車両は、全て参加者の手作りによるオリジナル。Honda エコ マイレッジ チャレンジなどのガソリン燃費競技に参加している車両を、Ene-1 GPの規定に合うよう改造し参加しているチームもあります。今大会では、Ene-1 GPマシンによるデモ走行が行なわれました。



参加チーム

| | | | | | | |
|--------------------------|----------------------------------|----------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|--|
| | | | | | | |
| ZDP 2016年Ene-1 KV-1優勝 | HTFTエコランクラブ 2016年Ene-1 KV-1参加 | 今工科研部 2016年Ene-1 KV-1参加 | 栃木県立矢板高等学校 A 2016年Ene-1 KV-1参加 | ミツバイク 2016年Ene-1 KV-BIKE優勝 | 日産栃木自動車大学校 2輪 2016年Ene-1 KV-BIKE参加 | 宇都宮工業高校科学技術研究部 2016年Ene-1 KV-BIKE参加 |

競技に参加する車両は、イチからの手作り

デモ走行に参加した7台のマシンは、それぞれ個性的。「KV-1クラス」は三輪で、エコマイレッジ車両と同様に、ドライバーは地面に寝そべった格好で乗り、その上に空力のカウルを着けたマシン。「KV-BIKEクラス」は二輪で、自転車のペダルを外してモーターで走るマシンです。各チームが持っている限りの知恵と技術と情熱を集めてマシンを作り上げることが、このレースの難しさであると同時に魅力でもあります。

限りある電気を上手に使うことが勝敗のカギ

Ene-1 GPは、1周のタイムアタックと90分間の耐久レースの総合得点で優勝を争います。いかにコースを速く走るかを競うタイムアタックで、耐久レースへの出場権とスタートグリッド順を決定します。ここで完走できなかった車両は、耐久レースに出場できません。今回はタイムアタックのデモ走行が行なわれました。本来の大会ではバッテリーの追加充電ができないので、タイムアタックで電気を使いすぎると、2つのレースを走りきれなくなる難しさがあります。Ene-1 GPは綿密な計算とレース全体の流れを熟知力が勝敗を左右する頭脳戦の面白さもあり、燃費の限界に挑むHonda エコ マイレッジ チャレンジに通じるものを感じられるデモ走行でした。

EMC NEWS



本田宗一郎杯 Honda エコ マイレッジ チャレンジ 2017 第37回 全国大会

【開催日】2017年9月30日(土)練習走行/10月1日(日)決勝
【燃料密度】0.741(2017年10月1日 午前7時35分時点)
【会場】ツインリンクもてぎ「スーパースピードウェイ」
【天候】晴れ/気温:20°C(2017年10月1日 午前7時35分時点)

“本田宗一郎杯 Honda エコ マイレッジ チャレンジ 2017 第37回全国大会”には、今年も全国各地の中学校や高等学校、大学、短大、高専、専門学校、社会人の合計361チームがエントリーして、創造力と技術を競いました。海外からは、タイ、中国、ベトナムの3カ国から8チームがニューチャレンジクラスに参加。グループIVクラスには、韓国から1チームが初出場しました。大会はグループIVの一般クラスで出場した「富士エコラン・チーム白糸」が、全クラスで最高燃費となる2791.897km/ℓで優勝するとともに、全クラス総合の最高記録を樹立したチームに与えられる“最優秀賞 本田宗一郎杯”を受賞しました。

Check!
「Honda エコ マイレッジ チャレンジ」って、どんな大会??

- テーマはシンプル
1リッターのガソリンでどれくらい走れるのか?
- 歴史ある大会!
今年で第37回目
- 海外でも開催!
タイ・中国・ベトナムでも実施される国際大会!

現在の最高距離
3644.869KM
目指せ! ガソリン1ℓで日本1周!
1,000ℓ

Honda エコ マイレッジ チャレンジは、限りあるガソリンの有用性を考え「1リッターのガソリンでどれくらい走れるのか?」をテーマとし、自由な発想であらゆる可能性にチャレンジする燃費競技大会です。規定周回数(距離)を決められた時間の中で走行し、燃料消費量から燃費を算出。燃費性能の高さを競います。全国各地の中学校や高等学校、大学、短大、高専、専門学校の、社会人のチームが毎年多数参加しています。

グループⅣ (一般クラス) 優勝



富土エコラン・チーム白糸 (静岡県)

記録 2791.897km/ℓ

コメント

カブのエンジン+アルミパイプフレーム+ウエルトカーボンボディというオーソドックスな組み合わせですが、要点を押さえた設計と製作、そしてテストを通じて記録の向上を図っています。今後もDIYでチャレンジします。



グループⅠ (中学生クラス) 優勝

東京都大付属中高自動車部中B (東京都)

記録 1007.028km/ℓ

「シンプル&高剛性」を目指して8年前に製作した旧車ですが、中2を中心に地道に改良・整備を続けてきました。その甲斐あって今回優勝に加え、2度目の1000km/ℓ越えを達成できて本当に嬉しいです。来年もさらに記録が伸びるよう頑張ります！



グループⅡ (大学短大専修門生クラス) 優勝 & ステップアップ賞

名城大学 MEGV2004 (愛知県)

記録 2104.810km/ℓ(前年比+707.255km/ℓ)

13年間走り続けたMEGV2004は、昨年で引退する予定でした。新車のトラブルにより今年大会も出場しましたが、私たちのチームが有終の美を飾ったことを誇りに思うと同時に、この車両に携わった先輩、部員、先生方に感謝しています。



グループⅡ (高校生クラス) 優勝

千葉県立下総高等学校自動車部A (千葉県)

記録 2097.539km/ℓ

出走前にトラブルがありましたが、三連勝することができて嬉しかったです。しかし、目標の2500km/ℓを達成することができなかったため、来年に向け頑張っていきたいと思っています。



ニューチャレンジクラス 優勝

GINUINE2 (タイ)

記録 2698.834km/ℓ

タイのチームを代表して、日本のエコマイレッジで優勝することができてとても嬉しいです。チームの仲間とサポートして下さったすべての皆様に感謝しております。



2人乗りクラス 優勝

栃木県立矢板高等学校 C (栃木県)

記録 918.776km/ℓ

絶好のコンディションのなか優勝できて光栄です。車両整備・練習走行を繰り返して、結果が残せて嬉しく思います。チームとしても記録更新を果たせました。来年は1000km/ℓにチャレンジしていきたいと思っています。大会が益々発展されることを祈念致します。

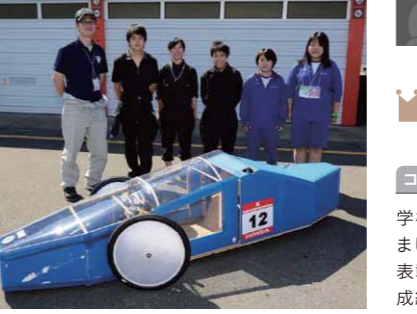


新人賞 (グループⅠ)

佐久穂中学校 チーム白樺 (長野県)

記録 216.716km/ℓ

昨年の冬から始めたこの活動が、完走という結果を残せただけでなく、このような賞を頂くことができて大変嬉しく思います。これを励みにし、来年もまた記録を伸ばして行けるように頑張りたいと思います。



ステップアップ賞 (グループⅠ)

篠ノ井西中学校Challenger (長野県)

記録 419.798km/ℓ(前年比+241.711km/ℓ)

低迷が続いた今シーズンでしたが、自車の持つ記録を更新できるよう、日々の活動の中で改良を重ねてきました。その成果が全国大会の場で発揮できたことが嬉しいです。Challengerはこれからもチャレンジを続けます！



デザイン賞

浜松城北工業高校 省エネ研究部B (静岡県)

この車両は、地元企業の協力により流れ解析を行って設計しました。表彰式では「空気の流れが見えるようなデザイン」と評価を頂き、大変嬉しく思います。来年は「燃費」でステージに上られるよう頑張ります。



二輪車クラス 優勝

横浜テクノ BREAK (神奈川県)

記録 297.298km/ℓ

先輩方の記録に並ぶことはできませんでしたが、2連覇を達成できて本当に嬉しいです。学校の先生とチーム全員が協力し合い達成した優勝は、学生生活最高の思い出になりました！3連覇を目指して頑張ります！



新人賞 (グループⅡ)

会津北嶺高等学校 (福島県)

記録 520.564km/ℓ

学校名変更後の初参戦で新人賞を頂き、誠に有難うございました。2人乗りクラスでは3位入賞することができて、両チームとも表彰式のステージに登壇することができました。来年はレースでの成績で入賞を目指して頑張ります。

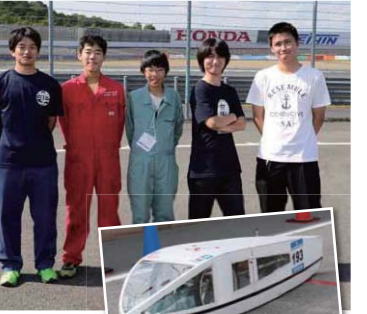


ステップアップ賞 (グループⅡ)

小田原城北工業高校自動車部日 (神奈川県)

記録 1457.954km/ℓ(前年比+426.990km/ℓ)

昨年比約400km/ℓの燃費を伸ばし、初のベストテン入りも果たして喜んでます。今年はいりやタイヤを14インチとし、クラックシャフトも変更することにより、空力・エンジンの改善を行いました。



第37回 全国大会の賞典について

Table with columns: 賞名, 対象, 基準. Lists awards like '各クラス別入賞1~3位', '最優秀賞', 'デザイン賞', '新人賞', 'ステップアップ賞' and their criteria.

出場チーム リザルト一覧

Large table listing race results for various teams, including rank, team name, and fuel consumption (km/ℓ).

Large table listing race results for various teams, including rank, team name, and fuel consumption (km/ℓ).

周=周回不足/オ=周回オーバー/無=周回なし/未=未出走/タ=タイムオーバー